

アメリカとドイツの新聞による日本スポーツ報道の分析

～なでしこジャパンの報道を中心に～

An analysis of the coverage of Japanese sports in American and German newspapers :

A case study of the 2011 Women's Soccer World Cup

1K08B170-9 春山 泉

指導教員 主査： リー・トンプソン 先生 副査： 石井昌幸 先生

【序章】 ー研究動機と目的ー

2006 年のワールド・ベースボール・クラシック開催をアメリカで、2010 年の FIFA ワールドカップ開催をドイツで過ごし、日本代表に関する両国の報道が新鮮で、他国から客観的に見た日本や日本人が独特に描かれていることを興味深く思った。各国の文化や性格が、スポーツ報道にも反映されていると考え、報道を分析することでそれぞれの特徴があらわれてくると考えた。また日本に関する報道を分析することにより、海外でどのような日本のイメージが作られているのか考察する。

【第1章】 ー先行研究と仮説ー

玉木正之というアメリカが「ドラマ化」を好むことには深く納得できるが、これはスポーツ報道においてもいえるであろう。岡田康宏は日本のサッカーを「勤勉なサッカー」と呼ぶが、このイメージは海外でも根付いているはずである。木崎伸也は海外メディアにおいて日本人選手個人の評価は高く、チームとしての評価は低いことを指摘しているが、実際はどうであるか分析を行う。ベネディクトはアメリカ人からみた日本の文化に見られる行動パターンを挙げているが、メディアにもそのようなことが反映されているであろうと予想する。

【第2章】 ー分析方法ー

「The New York Times (ニューヨークタイムズ)」と「Süddeutsche Zeitung (南ドイツ新聞)」それぞれのオンラインサイトで記事検索を行う。発行部数と購読者数、オンラインサービスが施され記事が無料検索できることや、アメリカ合衆国のニューヨークと、ドイツのミュンヘンという両国を代表する有名な大都市で発行されているという点からこの 2 紙を研究対象として選んだ。今回、アメリカとドイツ両国と日本の関わりが深かった 2011 年 FIFA 女子ワールドカップを取り上げた。大会期間中

における両紙の日本についての記事を抽出した。

【第3章】 ーデータ・結果・考察ー

前後 2 日間を含めた大会期間中の総記事数と、日ごとの記事数の推移を各新聞ごとにグラフ化し、特徴をみた。ニューヨークタイムズ紙は記事数が多いが試合結果のものが約半数を占め、大会の前半には記事数が少なく注目度が低いことがうかがえるのに対し、南ドイツ新聞は記事数が少ないが日本について詳しく取り上げる記事が多い。次に記事全体の内容を内訳し、コーディングシートを用いて分類していく。記事を大きく「試合」「チーム」「個人」「日本」についての 4 つに分類。ニューヨークタイムズ紙はチームと日本についての記事が多いのに対し、南ドイツ新聞は試合と選手個人についての記事が多い。そしてそれぞれの部類ごとに記事を読み込み、特徴的な表現や文章を例挙しつつ考察した。試合については南ドイツ新聞の批判的な記事が見つかり、チームについては、「なでしこ」というチーム名から日本代表チームの特徴などの両紙における見解を探った。個人については 4 人の選手と監督を取り上げ、両紙の報道の仕方の違いを指摘した。日本についてはファン・震災・文化に分け、それぞれの記事でどのように取り上げられているか検証した。また、両紙の特徴的な見出しを中心に取り上げステレオタイプについても考察した。ニューヨークタイムズ紙よりも南ドイツ新聞のほうが多くの要素を含み、文章も感情の起伏がうかがえるものが多かった。

【終章】 ー結論ー

仮説とは異なる結果が導き出された。「自由でコミカルなアメリカ人」、「規律を守り真面目なドイツ人」、という一般的なイメージが報道や記事に反映しているであろうと想像していた、私の持っていた固定観念のほうが大きな間違いだったのかもしれない。